

第2回協働推進委員会ワークショップ
「行政の市民活動の現場へのさんかく・しかく・まる」

行政の市民活動現場へのさんかくキーワード

死角（しかく）をなくそう

守りと攻めの対立という死角をなくそう
ニガテ意識、よそ者意識の死角をなくそう
出稼ぎ労働者の死角をなくそう

廻る（まる）をうながす

直接・間接に現場を見る
とことん聞く耳を持つ “クレームはチャンス”
若者のスケボーのようなイキイキ状況を発見する

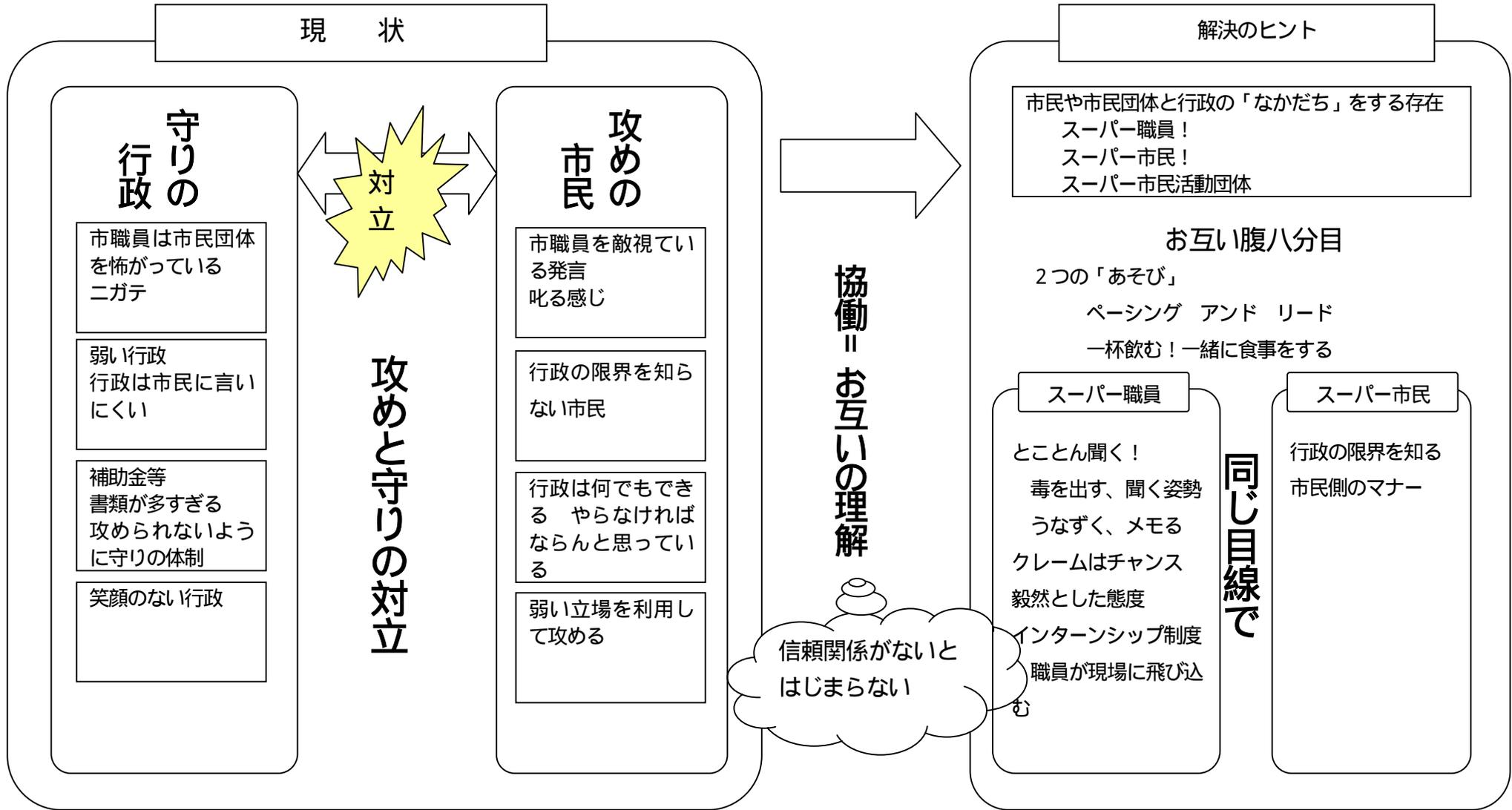
視覚を生かす

市民と同じ目線で見ると
何かを一緒にやることで気づきがうながされる 対話と行動を共にする
お互い腹八分目 休止符・アソビ・間
クッション的役割 コミュニケーションスキル

参画をつくる

ミッション（使命感）・パッション（情熱）・カンバン（法制度）の三位一体
おもしろくて楽しくてしょうがない“生き方としての協働”
目に見える成果で協働の広告塔にし、気運を世論に！！
インターンシップ制度として参加する仕組みを

褒められるとウレシイ 広告&PR！ 目に見える成功体験で協働の機運を高める！！



市民も職員も おもしろくて 楽しくて しょうがない ~ だからできる



| 現 状 | 解決のヒント | 現 状 | 解決のヒント | 現 状 | 解決のヒント |
|--|--|---|--|--|--|
| <p>職場としての豊明の地域活動にいつ参加できるのか</p> <p>職員もサラリーマン 市外からの出稼ぎ労働者という現状</p> <p>サービス残業になってしまう</p> <p>活動が面白ければ、市民は勝手にやれる 職員に参加して欲しいわけではない</p> | <p>働いている時間に調整する</p> <p>勤務時間内に市民活動を見ることができるようになる</p> <p>行政職員はよきコーディネータの役割が求められる</p> | <p>新しいことを取り組むのに躊躇する 予算がないと言われる</p> <p>最近職員が市民活動の現場を回るようになった</p> | <p>現場に即したやわらかい発想と専門性を身に着ける</p> <p>NPO も職員から学びを得る</p> <p>お互いの意識改革</p> | <p>どのような市民活動がなされているのかわからない</p> <p>庁舎全体の意識改革が必要 全課の参画</p> | <p>情報を流して自主的な参加を促進</p> <p>市民活動のどの部分に参画するかを明確にする</p> <p>職員の退職者の地域参加を促進する</p> <p>どのようなライフステージの職員でも参加できる市民活動を</p> |
| <p>労働者という現実と自治体職員という使命・役割</p> | | <p>何かを一緒にやることで「気づき」が生まれる</p> | | <p>参加するための仕掛け</p> | |

死角を視覚に！ 参画と廻る

